

(様式6-1)

実績概要 (ホームページ掲載用)

研究又は活動のテーマ	歴史的景観形成のための麓集落の現況調査研究
助成事業者	鹿児島大学
代表者	鯨坂 徹

(目的)

麓集落の景観は、将来、鹿児島県の貴重な文化資産となる可能性が高いが、現在その多くで道路の拡幅や区画整理により、美しい景観が失われつつある。今後の鹿児島県の景観形成とまちづくりに、残されている歴史的な麓集落の資産を生かしていくことを目的とし、現在の麓集落の実態を調査し、伝承していける部分は残して後世に伝えるための基礎資料を作成する。

(概要)

麓集落の現況調査を実施し、現況に残されている歴史資産の状況の把握を行い、景観形成やまちづくりに生かすことのできる建築(家屋 門 他)、構築物(石垣水路)、生垣等の現況を把握する。

今年度は、現地調査を進めながら、鈴木公著「鹿児島県における 麓・野町・浦町の地理学的研究」[昭和45年4月15日 私書版]に掲載されている約百カ所の五万分の一地形図と現況の地形図、航空写真、現地写真により比較検討を実施した。その結果、麓集落の景観が大きく変貌している要因として

- 1 麓集落[麓・野町・浦町]を貫通している主要道路の拡幅
- 2 麓集落[麓・野町・浦町]に新たな道路が新設貫通
- 3 麓集落[麓・野町・浦町]で区画整理事業が実施
- 4 水路の暗渠化や経路変更
- 5 建築物の高層化肥大化 駐車場化といった敷地内の変貌

があげられ、他方、現在も良好な景観が保たれている事例には以下の要因が確認できる。[変貌要因は上記理由の一つに限定できず複数個の相乗効果の事例もある]

- 1 道路等の新設拡幅がない場合
- 2 新たな道路が麓・野町・浦町の集落内を貫通するのではなく、様々理由[地形集落]から、麓と野町の間等に新たな道路が計画され、それぞれの集落の領域が継承されている

以上から、道路の拡幅、新設が最も景観に与える影響が大きいことか確認される。これは、麓集落の景観の骨格をなしている要素が、建築以外に石垣・生垣・水路といった道路に沿った景観形成の要素であることから確認できる。

次年度以降、今年度未了の麓地区をまわるとともに、いくつかの麓をサンプリングして、建築/構築物/生垣の分布状況についても調査を進めることとする。